

大学の世界展開力強化事業 取組概要 神戸大学

【構想の名称】(選定年度24年度(申請区分(I)))

ASEAN諸国との連携・協働による次世代医学・保健学グローバルリーダーの育成

【プログラムの目的・養成する人材像】

神戸大学及び大阪大学の世界標準の教育を基盤に、ASEAN諸国との連携・協働により、ASEAN諸国の課題への的確な問題解決能力及び英語による実践的コミュニケーション能力を有する、医学・保健学グローバルリーダーとして活躍できる医師、教育研究者、高度医療専門職者、医療産業人を養成する。

【構想の概要】

神戸大学、大阪大学、インドネシア大学、ガジャマダ大学、アイルランガ大学、マヒドン大学、チェンマイ大学を中心にコンソーシアムを構成し、ASEAN諸国との連携・協働により、短期間の派遣プログラム、単位を認定する交換留学及び博士課程の学位取得プログラムという多層的な派遣・受入交流プログラム等を企画・展開する。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

○ 交流プログラムの質の保証

平成24年度に、コンソーシアム運営委員会・外部評価委員会を立ち上げた。今後、外部評価委員会に本プログラムの成果等について評価を受けると共に、成績管理等について、コンソーシアム運営委員会に逐次報告し、検証を行う。

○ 相手大学(相手国)のニーズを踏まえた大学間交流の展開

平成24年度に各大学にサポートオフィスを設置するとともに、採用したプログラム実施教員・事務職員により、連携大学・機関のカリキュラムや事務手続きの円滑化や調査を行った。今後もサポートオフィスを中心に、交流を展開していく。

(留学生対象の日本語・日本文化授業)



■ 交流プログラムの内容、今後の開始に向けた準備状況

(大学院学生セミナープログラム)



○ 多層的・柔軟的・発展的な交流プログラム

平成24年度は、日本の大学院生を対象とした海外相手大学でのセミナー、修士課程及び博士課程における3か月の研究プログラムを実施し、大きな成果を挙げることができた。今後はこれに加え、学部課程における4週間の病院実習、大学院学生の6か月間の研究プログラム、さらにASEAN諸国学生を対象とした博士課程学位取得プログラム等を提供する。また、国内外の研究所等での演習、インターンシップの機会を提供し、教育研究機関や保健・医療機関、民間企業が必要とするグローバルな人材の育成につなげる。

○ 全学的推進体制・大学間連携

神戸大学国際コミュニケーションセンターにおいて「医学・保健学実践学術英語プログラム」を調査・開発中。医学・保健学の50年間にわたるASEAN諸国との交流実績を基盤とし、ASEAN連携5大学・国内連携2機関から合意書等を取得済み。

■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

平成24年度は、インドネシア大学に10名、マヒドン大学に1名を派遣した。平成25年度はマヒドン大学に13名、インドネシア大学、アイルランガ大学、ガジャマダ大学及びチェンマイ大学に各1~8名を派遣する。平成26~28年度には、各大学に毎年1~10名を派遣する。

○ 外国人留学生の受入れ

平成24年度は、インドネシア大学、アイルランガ大学およびマヒドン大学から各1名の受入れを行った。平成25~28年度には、インドネシア大学、アイルランガ大学、ガジャマダ大学、マヒドン大学およびチェンマイ大学から、毎年2~8名の受入れを行う。

	H24	H25	H26	H27	H28
学生の派遣	11	21	22	26	26
学生の受入	3	18	18	20	20

注)H24は実績、H25以降は計画

■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

○ 履修面・学習面・生活面にわたるサポート

平成24年度は、派遣学生について、派遣前に英語によるプレゼンテーション等を実施するとともに、派遣中には教員・事務職員を派遣し、現地の学習環境や生活環境について調査を行った。留学生受入れに関しては、研究活動と共に、日本語・日本文化に関する授業も行った。また、宿舎については、比較的安価で安心な民間の宿舎を確保できた。今後においても、より充実した履修面・学習面・生活面にわたるサポートを行っていく。

○ 大学以外の機関や産業界との連携について

平成24年度は、WHO神戸センターより講師を招き、セミナーを開催した。今後は、セミナーに加えて、将来的なキャリアパスを視野に入れたインターンシップを行う。インターンシップ先として、WHO神戸センターや兵庫県立健康生活科学研究所及び国立感染症研究所等を計画している。また、兵庫県以外の地方衛生研究所、医学・保健学分野のNPO等との連携を拡大する。

■ 教育内容の可視化・成果の普及

○ 国内外への情報提供の方法・体制について

平成24年度は、日本語および英語のホームページ、シンポジウムの開催、パンフレットによる情報公開に加えて、SNS上に本プログラムのページを開設した。今後は、オンラインNewsletterを学生主導で作成し、学生が構想から発行までを担い、成果発表の場とする。